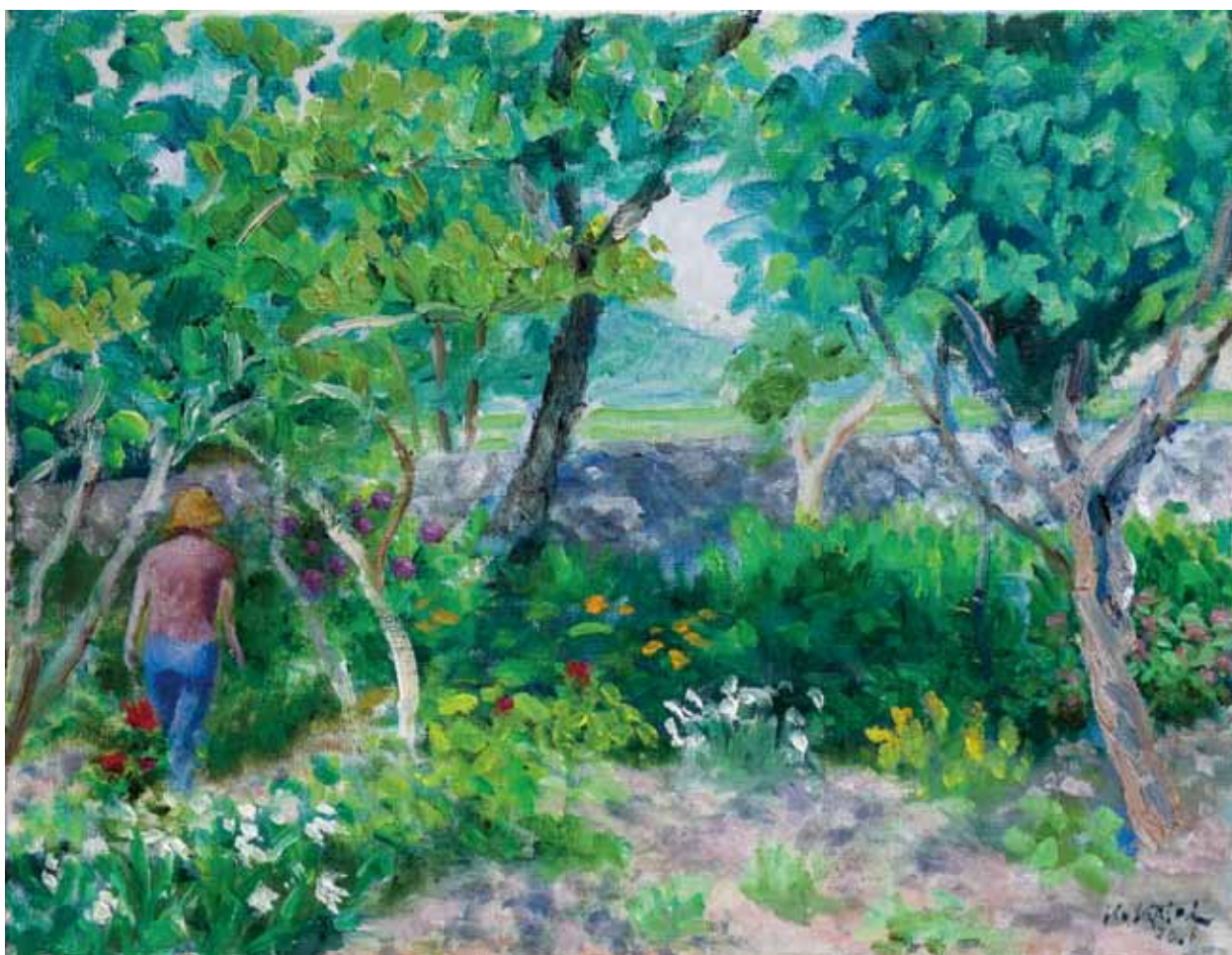


福 井 県 医 師 会

だより

第721号 令和3年(2021)7月



初夏の庭 福井市 加藤 初夫

表紙写真説明：初夏の庭

福井市 加藤 初夫

若い頃は別行動が多かった妻とも、この年になると一緒に出かけることが多くなった。実家の庭の手入れに付き合った。私は土いじりには興味がないのでスケッチを始めた。咲く小花が可憐でいじらしい。

醫 縫 録

福井大学医学部の現況と将来

福井大学医学部長 藤 枝 重 治



私は福井医科大学一期生でございます。恩師齋藤等名誉教授から耳鼻咽喉科・頭頸部外科を引き継ぎ、副病院長（経営・医療安全）を7年間務めたのち、令和3年4月から福井大学医学部長を拝命しました。入学当初（昭和55年）、ポツンと講義棟しかなかった大学も、病院は新築され、臨床研究棟も耐震工事を含めた再整備が行われました。大学周辺は医大村と言われ、スーパーをはじめ多くの学生用アパートや飲食店が立ちました。医学科から約3,700名の医師が、看護科からも約1,500名の看護師が誕生し、全国各地で働いております。明らかに福井大学医学部は次なるステップに入っており、これまでとは異なった地域貢献が必要であり、福井県医療に対する責任があると考えております。

実際の学生教育に関しては、皆さんも覚えていらっしゃるであろう解剖実習、医学生最初の試練ですが、今や1年生秋から開始しています。意気揚々と入学した学生は、遊ぶことなく(?)すぐに全力で勉強に励んでいます。クリニカルクラークシップを含む臨床実習は、昨年から約70週とほぼ2年にも及び、延長した分を医師会の皆様方に、学外実習として学生の指導をお願いすることになりました。この場をお借りしてご協力に心より感謝申し上げます。残念ながら、コロナ禍ということで、まだ行けておりませんが、実習学生のワクチン接種も終了し、この6月からはお願いできると思っております。学生は学外実習を大変楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひいたします。

学内実習では、福井大学発のF-CESSという実際の診療カルテにリンクした学生電子カルテを使用し、実践的臨床力を持った医学生を育成しています。しかしここ2年間のコロナ禍では実践不足は否めず、これから鍛えなければいけないとも感じております。

さて話題は飛びますが、現在の福井県医療を見渡しますと、明らかに内科医が不足しており、早急な対策が必要と考えております。福井大学附属病院の診療科でも、マイナー系はそれなりに充実していますが、メジャー系特に内科の充足が急務になっております。これまでも福井県内の地域医療の充実を図るため福井県からの寄付講座：地域医療推進講座、高浜町と連携した地域プライマリケア講座を中心に活動してはいましたが、なかなか内科医充足にはつながりませんでした。本年度、厚生労働省事業での総合診療・総合内科センター（GGG）設立、文部科学省の感染対策事業、福井県からの寄付講座：感染症学講座設置で、全てを医学部長連結で機能に連動させ、「みんなで内科医になろう、福井で」運動を学生に一気に働きかけているところです。年間20名、5年間で100名の内科医輩出がプライマリエンドポイント、絶対的目標です。もちろん他の診療科も必要です。ですが、福井県地域医療対策協議会の会長を拝命する立場としては、この運動を推進するつもりです。運動には、様々な資金も必要になってきます。各内科の診療モデル、内視鏡実習、カテーテル実習等、魅力ある福井大学医学部造りです。今回、永平寺町へのふるさと納税制度を用いた福井大学医学部応援事業を立ち上げました。是非とも福井大学医学部ホームページをご参照になり、ふるさと納税を今年から毎年継続的にお願い申し上げます。返礼品はありませんが（資金難でございます）、永平寺そばを医学部からお送りします。皆様の応援をお待ちしております。